

2021年の日本経済の動向について

第一生命経済研究所首席エコノミスト
なが 永濱 利廣

- * 近づく過剰流動性相場の終焉
- * 為替はドル安・円高からドル高・円安へ
- * 目立つ日本の非製造業の低迷
- * 各国景気の回復左右するワクチン普及度
- * 来年秋の中間選挙意識するバイデン政権
- * 日本に影響大の米国の環境保護政策
- * 菅政権は小泉・安倍改革をどう活かすべきか
- * 東京五輪の経済効果を考える
- * 歴史的に長期政権の後は短命
- * コロナ禍で予想される成長分野



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、第一生命経済研究所の永濱さんにおいでいただきました。この会は初めてでございますが、1971年のお生まれで、早稲田大学の理工学部をご卒業後、第一生命に入られ、日本経済研究センターに出向され、その後、第一生命に戻られて調査部で経済研究調査をされてこられました。東大の大学院の修士を修了されておられます。

コロナでこの1年間たいへん経済的には厳しい状況が続いてますが、これから日本経済がどうなっていくのか、そういったことを中心に今日はお話をいただけたと思います。

それでは永濱さん、よろしくお願ひいたします。

近づく過剰流動性相場の終焉

永濱 ただいまご紹介にあずかりました、第一生命経済研究所の永濱と申します。本日は、一生命経済研究の中、ご視聴いただきました誠にありがとうございます。

今回、私のほうからは、「どうなる？今後の日本経済」ということで、コロナ禍の今後の日本経済を中心に、グローバルな展望をしてみたいと考えております。

簡単に結論から申し上げますと、コロナの状況がどうなるかというところで先行きは不透明感が高いのですが、コロナがどうなるかだけでなく、今年は非常に政局的にも国内で大きなイベントがございますので、それがどうなるか。